

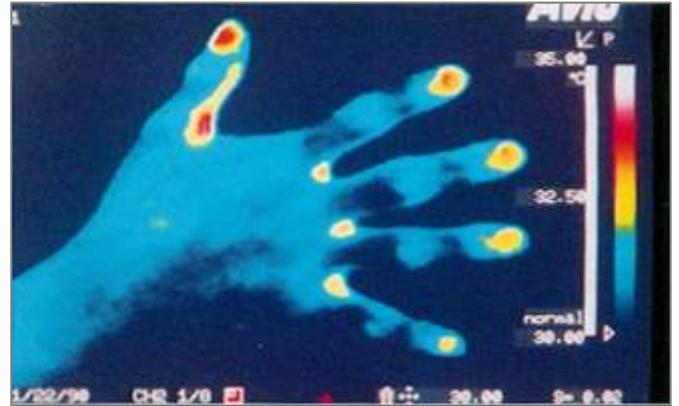
週刊 タバコの正体

タバコの煙を吸い込むと体内の血管が収縮を知っているでしょうか。つぎの画像はその証拠写真です。じつは、手などの末端にある毛細血管が縮むと血流が少なくなります。すると見た目ではわかりませんが、皮膚の温度を測定する装置を使うと次の画像のように喫煙の30秒後には、温度を表わす色が変わります。だいたい2℃も低下してしまいます。



▲喫煙前

ファルマシア発行 写真で見る喫煙関連疾患 から

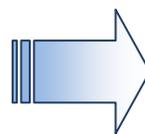
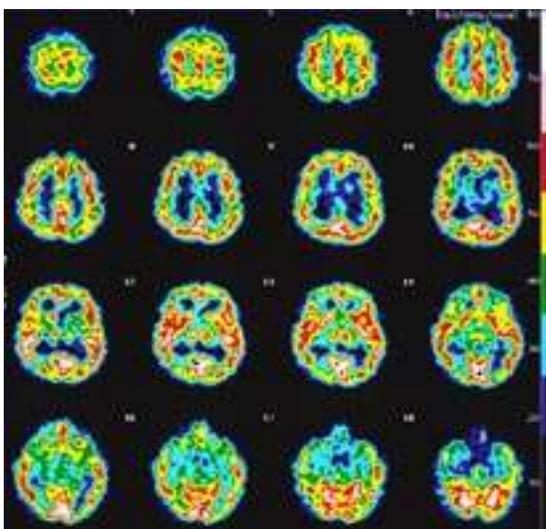


▲30秒後

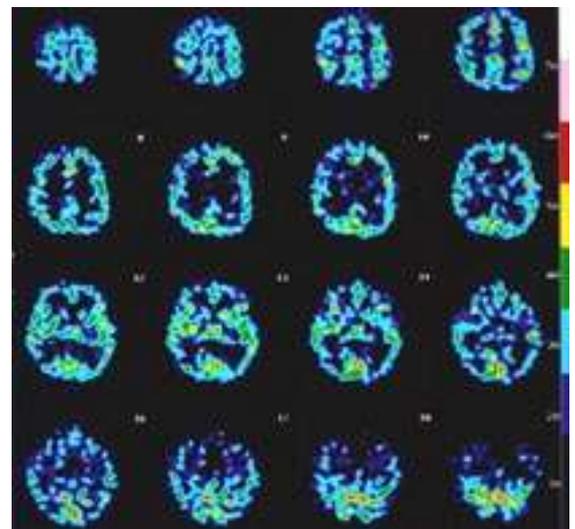
そして、血流が少なくなるのは手だけではなく、なんと、脳の血流も低下しています。下の画像は特殊なカメラで脳を輪切りにして撮影したもので、赤や黄色い(明るい)部分は血流が多く、青い(暗い)部分は少ないことを表わしています。タバコを吸う前の左側の画像には明るい部分が多いのに、右側の喫煙後の画像には暗い部分が増えています。

タバコを吸う度に、血液の流れがこんなに少なくなってしまうなんて、ちょっと危険で怖いかんじがしませんか。やっぱり、タバコは必要ありませんよね。

産業デザイン科 奥田 恭久



1本喫煙



写真提供:香川医科大学放射線科 佐藤功教授

「最新タバコ講座」サイトから